

う。当然、このような命名は成り立たない。これに対して、私は社会学の角度から「先に豊かになった利益集団」(原中国語: 先富起来的利益群体) という概念を提示した。これを以って裕福層を命名したり、その性格を描き出したりしようとしている。「利益集団」は社会学、政治学の一つの中性的な概念であり、国際で通常に使用されている概念である。この概念を用いれば誤解を起しにくいと思っている。「先に豊かになる」は中国大陸の皆が承知している鄧小平の政策名言である。先に豊かになるというのは合法的なもの、激励されるものを意味する。この論争は新聞、雑誌とマスメディアにおいて行われていないが、いろいろな形で学術の範囲で行われている。私は中国の数多くの地方で学術報告を行ったとき、私の論証に対して、多くの好評が得られた。

貧困層について、中国の貧困層がいったいその範囲はどの程度のものか、どのように分布しているのか、これについて私は説明したい。私の論点は、中国大陸では貧困層が存在しているが、少なくとも以下の四つの部分があるという点にある。中国の西部では一面の貧困地区の貧困層が存在している。中国東部、中部では一部分分散している都市から遠く離れている貧しい山村の貧困層が存在している。都市部では下崗工¹⁴⁾を主体とする新しい貧困層が存在している。それから都市に入って出稼ぎ農民工の貧困層が存在している。これらの貧困層が中国大陸の社会に与えた影響面は多かれ少なかれ異なっているし、この問題を治める面においても異なっている。これと関連して、もう一つの問題は実際に貧困層に属していないのに、相対剝奪感を抱えて、自分が貧困層にいるというような社会集団も存在している。これを含めて五つの問題があるが、それぞれ少しずつ分析しておきたい。

第一は、中国西部にある貧困地区の貧困層である。これは貧困地区の貧困であるといえる。中国ではよく「老少辺貧」(老少辺窮) という形容詞を以って表現する。「老」はすなわち老区(古い地区)で、過去の革命聖地のことである。「少」はす

なわち少数民族である。「辺」は辺疆(辺境)地区である。「貧(窮)」はその他の貧困地区である。これらは主に中国の西部に分布している。この貧困層の人数は1978年の時2億5千万人、昨年まで5千8百万人に下がった。約2億人が貧困から脱出した。この20年以來、平均毎年1千万人の脱貧困者がいる。これも中国大陸の貧困扶助の大きな成果である。この部分の脱貧困は中国現代化にとって非常に重要な指標である。しかし、この部分の人たちは都市部から遠く離れているので、社会の安定に与える影響はそれほど強烈かつ直接的なものではない。大陸のマスメディアが言っている貧困はほとんどこの貧困層を指しているが、中国の貧困問題の解決はこの部分の問題だけではない。

第二は、中国東部、中部にある都市から遠く離れている分散的な貧困山村である。これは裕福あるいは比較的裕福地区の貧困であるといえる。大陸の各裕福の省でも多かれ少なかれ、大規模あるいは小規模の貧困地区が存在している。たとえば裕福の広東省粵北の山区では、約50万人の貧困層が散在している。全国ではこのような地区はどのくらいあるのか、現在、また適確な数字がない。この部分の人たちの社会的影響は、第一に紹介した部分と似ている。彼らの脱貧困は当該省の現代化の実現度にとって重要な指標であるが、都市から遠く離れた山村に散在しているため、社会の安定に与えた影響はそれほど強烈かつ直接的なものでない。

第三は、都市の下崗工が主体としている新しい貧困層である。都市の沢山の国有企業の従業員は下崗工である。これは「効率第一、同時に公平」を実施して、産業構造の調整、「大鍋飯を食う」という状況を徹底に見直すことによって、必然的に現れた現象である。中国の現代化と社会変容を推進することに当たって、支払った代価(社会コスト)である。問題はコストをなるべく小さくしなければならぬが、障害物、圧力を産業構造と職業構造の合理化原動力に変えることが重要である。改革開放の深化にしたがって、近年、下崗工

14) 訳者注: 下崗工(シャガンゴン)とは、市場移行期における中国国有企業の改革は、企業が抱えている余剰人員を削減するために、もたらした失業者であるが、完全失業者とは言い難い面もある。というのは、元の企業から月に一定の生活手当をもらい、企業と何らかの関係を保っている状況である(企業は倒産しない限り)。